

令和6年度 第一部会技術分科会 活動報告（概要）

令和7年6月
一般社団法人 日本消火装置工業会

1. 委員会

(1) 委員構成

15社16名で構成 ※令和7年3月末時点（前年比 ±0）

(2) 開催回数

定例会（原則1回／月）9回＋合同委員会1回＝計10回 ※定例会は3回休会

2. 審議・確認事項

(1) 配管腐食に対する注意喚起の件【了】

亜鉛メッキ鋼管は一般的に腐食に強いが、温度・水質の条件によっては短期間で孔食を生じるような腐食（電位逆転による亜鉛メッキ鋼管の腐食）がまれに起こることが報告されている。事例紹介のリーフレットを作成し、「電位逆転による亜鉛メッキ鋼管の腐食 ～事例・文献のご紹介～」として令和6年11月よりHPに掲載した。

(2) 規格省令改正にかかる委員派遣の件【継続】

日本消防検定協会より「消火設備規格研究専門部会」への委員派遣依頼があり、主査・副主査が参加している。SPヘッドに係る省令改正における技術的事項の確認を行っている。

(3) 東京消防庁との意見交換会の件【継続】

東京消防庁との意見交換会を令和6年7月より不定期で実施。最新技術の導入や予防業務上の課題、予防事務審査・検査基準に対する要望、その他業界の動向について共有・検討を行っている。

(4) SPヘッド劣化調査のためのサンプル収集の件【継続】

消火設備機器等の劣化に関する調査活動を断続的に行っており、その成果を「消火設備の維持管理に関するご提案」等に生かしている。閉鎖型のスプリンクラーヘッドは感知性能の向上に伴い近年は性能基準がより厳しいものになっているが、それらの長期的な劣化に関する知見はほとんど得られていない。高い性能を維持するための参考データとすべく、点検を実施している各社からのサンプル収集を令和7年2月より開始した。

(5) SPヘッド色別表示の自主的な取り組みの件【継続】

SPヘッドの規格省令の改正により、標示温度を刻印等で確認できる場合は色別を省略できるようになる。これにより表示方法が増えることにはなるが、長年現場で運用されてきた色別による標示温度の識別が突如省略されると混乱するおそれがある。よって、日本消火装置工業会の会員会社では色別を省略せず当面の間は継続することとした。

(6) その他

- ・負圧環境下でも使用可能なSPヘッドの一覧更新

3. 関連作業部会

①設計・工事基準書改訂 WG1 （スプリンクラー設備設計・工事基準書）

- ・委員構成（10 社 11 名）
- ・会議開催回数：10 回
- ・令和 7 年度に改訂版を発刊目標として継続中。

②住宅防火対応 WG

- ・委員構成（10 社 11 名）
- ・会議開催回数：0 回
- ・住宅用スプリンクラーの普及と、パッケージ型自動消火設備Ⅱ型の住宅火災への有効性について、行政や認証機関のお墨付きを得るための検討を継続中。

以 上